

## 【講師からのウェビナー紹介】

有機フッ素化合物である PFAS は、防水、耐油、耐熱性の特性を持つため、衣料、調理器具、化粧品から電子・電気部品、自動車部品までの幅広い用途に使用されています。最近の研究で PFAS ががん等の健康被害を引き起こすことを指摘されてから、欧米を中心に PFAS を含有する製品の製造や輸入を禁止する動きが加速しています。

米国でも PFAS による人体への影響が懸念されており、政府による早急な対応が望まれています。これに応えるため、米国環境保護庁（EPA）は「パーフルオロアルキル物質（PFAS）戦略的ロードマップ」を公表しました。これをもとにして法規制の整備を行い、包括的な PFAS 対応を実施する予定です。電気製品、医療機器、機械、自動車部品などに成形品として使用される PFAS も規制の対象になります。

本ウェビナーは、（１）連邦規制および州法の最新動向（PFAS 規制の概要とその他で注意すべき化学物質規制なども含む）、（２）PFAS 規制動向および留意点、（３）企業の対応方法例として米国規格 IPC 1 7 5 2 A に準拠した成形品に含有する化学物質情報伝達ツールを利用する新しい法規制遵守ツールを含むサプライチェーンを利用する新しいコンプライアンス方法の説明（４）米国企業の対応事例、（４）Q&A から構成されます。

最新の情報を解説しながら、講師の米国での実務経験をもとにした、PFAS を含む化学物質規制に対して企業が取るべきプラクティカルなポイントを説明します。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 【講師略歴】



エンバイロメント・ジャパン株式会社 (Environment Japan K.K.)

代表 玉虫完次 (Kanji Tamamushi, Ph.D.)

米国バンダービルト大学院で化学を専攻。フタル酸エステルや農薬などの分析および地下水汚染・土壌汚染浄化方法の研究で Ph.D. を取得。

ケミカルアブストラクツサービス (CAS、米国化学学会)、米国松下電器、P&G (F.E.)、米系大手環境コンサルティング会社を経て、2010 年に東京にエンバイロメント・ジャパン株式会社を設立。滞米 25 年の業務経験を生かした、製品関連化学物質規制診断、EHS コンプライアンス監査、M&A 環境デューデリジェンス、米国 TSCA 新規化学物質申請、米国 FIFRA 抗菌剤申請や欧州 REACH 規則、RoHS 指令などの化学物質規制コンプライアンスなどを主たる業務分野として対応。

主要著作として、『製品含有化学物質のリスク管理、情報伝達の効率化、第 3 節 米国の化学物質規制 (連邦法、州法) の最新動向と企業対応』(株式会社技術情報協会、2017 年)、『国内外各国における SDS/ラベル作成の実務 (2021 年版) 第 3 章米国』(株式会社情報機構、2021 年) を執筆。

JETRO 2023 年度新輸出大国コンソーシアムパートナー、Sphera Solutions パートナー（欧米 REACH, RoHS, TSCA, Prop65 規制対応電気電子機器化学物質情報伝達ツール BOMcheck 普及、米国 OSHA・HCS 準拠マルチ言語対応 SDS ソフト普及に取り組む）などを務める。